

鹿角市議会  
9月定例会  
行政報告

主な内容

- ・地域医療の推進 岩手医科大学見学ツアー実施
- ・夏祭りコロナ禍前と同等の入り込み数に
- ・くらし応援プレミアム付商品券 11月30日まで



令和5年第5回鹿角市議会定例会が9月1日から25日間の会期で開かれました。初日に行われた市長の行政報告の概要をお知らせします。  
☎総務課 行政班 ☎ 30-0203



↑5年ぶりの岩手医科大学見学ツアー  
内視鏡の模擬体験



↑8月21日から3日間にわたり開催  
毛馬内盆踊り



↑十和田市民センター駐車場敷地に建設  
予定の十和田図書館 完成イメージ図

■7月の大雨により被災した  
県内自治体への職員派遣

秋田市や男鹿市、五城目町からの応援職員の派遣要請を受け、本市からは、7月21日から8月31日までの期間に、五城目町に15日間で延べ73人、秋田市に3日間で延べ3人を派遣しました。派遣職員は、五城目町では、給水業務や災害廃棄物管理業務、被害家屋調査業務などに、秋田市では、被害家屋調査業務に従事しました。

■かづのキャンパス構想の推進

大学と地域の域学連携を推進するため、8月6日から9月13日までの期間に、学校法人武蔵野大学から、昨年度より4人多い33人の学生を受け入れました。また、大学生と

共に中・高校生が研究活動を行うかづの未来アカデミーでは、市内の中・高校生10人が参加し、高度な学びを体験するなど、鹿角の魅力を再発見する貴重な機会となりました。

8月1日に武蔵野大学を訪問し、学長をはじめ大学関係者に、プログラムの通年化に向けて新たな学部の誘致をお願いしました。また、内閣府の「地方へのサテライトキャンパス等設置に向けたマッチングのための調査・支援事業」によって、大正大学地方創生学科を紹介されたことから、副学長などに、本市の域学連携の取り組みを説明しています。その際、大学側からは地域構想研究所の取り組みの説明を受けたほか、地域共創コンソーシアムへの参画を

依頼されたことから、本市では大正大学との連携強化のため、7月5日付けでコンソーシアムに参画しています。今後も、本市ならではのサテライトキャンパスの実現に向けて、取り組んでいきます。

■地域医療の推進

8月5日に、岩手医科大学見学ツアーを行いました。5年ぶりの見学ツアーには、児童・生徒・保護者を合わせ、47人が参加しました。当日は、医学部・歯学部・薬学部・看護学部が同一キャンパスにある岩手医科大学で、学生のある岩手医科大学の見学のほか、体験実習や大学の学食体験、ドクターヘリの見学、学長との懇談会が行われました。こうした事業への参加を通して、医師をはじめ、看護師、薬剤師などの医療専門職に、興味や関心のある人が志をさらに高くし、将来、医療の道に進むことを期待しています。

■新型コロナウイルスワクチン接種

5月8日から実施している

春開始接種は、期限が9月19日まで延長され、8月28日現在で、9507人が接種しています。また、秋開始接種については、9月20日から生後6か月以上のすべての市民を対象に実施しています。流行している株に対応したワクチン接種ですので、接種を希望する場合は、早期の接種をお願いします。今後も、接種希望者が安心してワクチン接種ができるよう、きめ細かな周知に努め、関係機関と連携を図りながら実施していきます。

■農作物の生育

水稲は、5月下旬から6月上旬にかけて、平均気温が平年より低かった影響で、例年に比べて茎数が少なく、草丈が長い状況でしたが、7月の天候の回復により、出穂期は平年より早くなっています。今後は、収穫期に向け、品質と収量確保のため、病害虫防除の確実な実施と適期刈取りを周知していきます。

桃は、7月の降雨により核割れが例年より多いものの、平年より早い生育です。8月

上旬に始まった「あかつき」に続き、主力品種の「川中島白桃」の収穫も行われ、糖度、大きさともに良好でした。本市が誇る「かづの北限の桃」のさらなるブランド化に向け、市場関係者などに強くPRしていきます。

キュウリやトマト、枝豆などの野菜は、7月中旬の曇天や雨の影響により、出荷量や秀品率が一時的にやや減少したものの、出荷量は前年以上で推移しています。

■夏祭りの入り込み数

各祭りとも通常規模で開催され、訪れた人々に、本市の夏祭りの魅力を感じていただきました。花輪ばやしは、22万5千人の入り込みで、土日開催に加え、これまでの北東北を中心に行ってきた積極的な誘客PRや、あんとらあの祭り展示館での定期的な実演披露の効果もあり、駅前行事を中心に多くの観覧客で賑わいました。

ユネスコ無形文化遺産に登録されてから初めての開催となった毛馬内盆踊りは、一般の踊り手に加えて、地元団体

による大太鼓の共演や、語り部による伝説の披露などが行われ、入り込み数は1万5千人となりました。

花輪ねぶたは2万3千人、大湯大太鼓まつりは800人の入り込みとなり、夏祭り全体では、昨年と比較すると約2割増、コロナ禍前の令和元年度と比較すると同等の入り込みでした。引き続き、本市の歴史・文化を観光資源として活用し、効果的な情報発信をすることで、誘客に向けた事業を積極的に展開していきます。

■JR花輪線の利用促進

8月10日に、秋田・岩手両県および沿線5市、JR、商工観光団体などで構成する花輪線利用促進協議会総会を開催しました。昨年の大雨による区間運休、運転再開を経て、改めて花輪線の重要性を共有したほか、利用促進策について活発に議論を交わしながら、協力的体制のさらなる構築を図りました。

今後は、利用者の増加に向け、SNSを活用して花輪線の魅力と沿線の観光資源など

のPRを継続し、秋田県主催の「JRRローカル線活性化研究会」で協議会から提案した撮影スポットの整備、サイクルトレインや居酒屋・喫茶店列車の運行、秋田犬の活用などについて、実現の可能性を探りながら、沿線住民や観光客に愛される路線を目指し、会員やJRと連携して取り組んでいきます。

■物価高騰対策事業「くらし応援プレミアム付商品券」

全市民に引換購入券を配布したところ、引換購入期限の7月27日までの引換購入率は81.5%となりました。その後、当初の販売期間に購入できなかった未購入者を対象に、8月22日から9月8日までの期間で再販売を実施しました。商品券の利用期間は11月30日までですので、多くの人に利用していただきたいと思えます。

■EVの導入推進

トヨタ車体株式会社から超小型の1人乗りB（バッテリー）EVの「コムス」3台を無償で借り受け、EVの普

及可能性の検証と啓発を進めています。7月23日には、あんとらあを会場に、コムスの試乗体験会や各自動車メーカーのEV展示を実施しました。今後も、各種イベントでの展示などによる普及啓発に加え、事業者によるモニタリング調査を実施し、市内でのEV利用の可能性を探りながら普及を図っていきます。

■十和田図書館整備事業

現在の十和田市民センター駐車場敷地に建設することから、交通規制や駐車スペースの使用制限を行います。利用者の皆さまにはご不便をおかけしますが、関係機関と連絡を密にし、安全を最優先に工事を進めていきます。

■第76回十和田八幡平駅伝競走全国大会

8月7日に、15チームが真夏の鹿角でタスキをつなぎました。男子は小森コーポレーションAが4年ぶりの優勝を飾りました。また、本市出身の松宮祐行氏が監督として率いた北陸実業団連盟が5位入賞を果たしています。